

研究分野のキーワード：家庭科教育実践史，教育内容，教育方法，教科書，城戸幡太郎

#### 研究紹介

「家庭科」は、戦後初期の教育改革のなかで「社会科」「自由研究」と並んで誕生しました。戦後初期にみる教育改革の理念は、民主的人格の形成でした。社会科は「民主主義社会の建設にふさわしい社会人を育てよう」という大きな目的のもと誕生し、新教育の中心的教科として位置づけられます。社会科は社会の民主化を、家庭科は家庭の民主化を目指して誕生しました。

家庭科が誕生したのは、1947年のことです。その誕生から60年以上が過ぎました。幾多の変遷を経て現在の家庭科に至ります。家庭科は、今後、どのようにあゆんでゆくのでしょうか。家庭科のこれからを展望するために、どのようなことが必要なのでしょうか。

家庭科は生活問題等と分かち難く結びあいながら、あゆみを重ねてきた教科です。家庭科は、公害問題、保育所問題、消費者問題、労働問題等、日常生活の諸場面に生じる問題を自然や社会との関連で捉え、一人ひとりの人間が尊重される民主的な社会の実現や家庭の創造に向けて、「家庭」という場を手がかりに家庭の中の人権を社会の現実に照らし、その解決を教育として取り組んできました。国際化、多様化等がすすむ社会にあって、生活問題は複雑化しています。

家庭科のこれからを考え、家庭科の教育内容や教育方法を構築するために、家庭科があゆんできた歴史に学びながら研究をすすめています。城戸幡太郎の家庭科構想や教科書分析などを中心に、家庭科教育実践史の一端を明らかにし、家庭科の未来を展望したいと考えています。